

DSO参画機関からの開催報告

森林総合研究所

男女共同参画週間

「あなたらしい」を築く、「あたらしい」社会へ (内閣府男女共同参画推進本部キャッチフレーズ)

【日 時】2022年6月23日(木)~29日(水)

【場 所】森林総合研究所(つくば)正面玄関ならびに一時預り保育室

内閣府によって定められた男女共同参画週間の取組として、森林機構森林総合研究所では、例年どおりポスター展示と保育室の見学会を行いました。研究所正面玄関のロビーには「女性の身体を持ちながらあなたらしくサバイブするために」をテーマとした企画のほか、昨年行った男女共同参画意識調査の結果など、すべてオリジナルのポスターを展示し、一週間の開催期間中に多数の方々に見ていただきました(写真1)。会場には時節柄七夕の笹飾りを設え、彩を添えました。



(写真1) 正面玄関前の展示



(写真2) 保育室の見学会

また、28日(火)の昼休みには恒例の一時預り保育室「どんぐりるーむ」の見学会を実施し、30名ほどの所内職員の参加がありました(写真2)。

今年も多く職員が展示ならびに見学会を訪れ、機構内のダイバーシティ推進をアピールできたかと思えます。なお、詳細については森林総研ダイバーシティ推進室のウェブサイト(下記)をご覧ください。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/geneq/index.html>

DSO参画機関からの開催案内

産業技術総合研究所

産総研 **さんそうけん**
未来ひろがる産総研ラボ

2022年8月24日(水) オンライン開催

産総研(さんそうけん)とは?

- 国内最大級の公的研究機関の一つ。
- 全国11カ所の研究拠点で約2300名の研究者が働く。
- 7つの研究領域をもつ多様性を活かし、社会課題の解決のための研究を推進。

理工系分野に興味がある女子中高生等、学生の進路選択を応援するため、この夏、産総研研究者による**オンライン授業**を開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております!

【日時】2022年8月24日(水) 13:30~16:00 (受付開始 12:00)
【参加方法】Zoom
【内容】産総研研究者によるオンライン授業(学生のみ実験実習含む)
【対象】中学生~高校生、保護者、教員など ※男子学生の参加も歓迎です!
【申込メ切】2022年8月1日(月)正午 ※30名程度、先着順
【申込方法】[WEBサイト](https://unit.aist.go.jp/innhr/diversity2020/ja/events/220824_event.html)からお申込みいただけます。
【お問合せ】国立研究開発法人 産業技術総合研究所
イノベーション人材部 ダイバーシティ推進室
〒305-8560 茨城県つくば市梅園1-1-1
E-MAIL : rikei-sec-ml@aist.go.jp

詳しくはWEBサイトをご確認ください
https://unit.aist.go.jp/innhr/diversity2020/ja/events/220824_event.html

【日時】
2022年8月24日(水) 13時半~16時

【参加方法】
オンライン開催 (Zoom)

【対象】
中学生~高校生、保護者、
教員など
※男子学生の参加も歓迎

【申込メ切】
2022年8月1日(月) 正午
※30名程度、先着順

【申込方法】
下記QRコード、URLの、
参加申込フォームより
後日、接続方法等の詳細を
メールにてご案内

【お問い合わせ】
「未来ひろがる産総研ラボ」事務局
Eメール: rikei-sec-ml@aist.go.jp
(*を@に変更して送信下さい。)

【詳細はこちら】



【プログラム】

- 12:00 Aグループ受付、実験実習準備 (~12:30)
- 12:30 Bグループ受付、実験実習準備 (~13:00)
- 13:30 開会
- 13:40 産総研研究者による実験実習 1
 - Aグループ:
 - ①「人工イクラを作ってみよう~つかめる水の不思議~」
武仲能子(材料・化学領域 機能化学研究部門)
 - Bグループ:
 - ②「バーチャルな世界の自分は脳の中で作られる」
金山範明(情報・人間工学領域 人間情報インタラクション研究部門)
- 14:30 休憩
- 14:40 産総研研究者による実験実習 2
 - Aグループ: ②
 - Bグループ: ①
- 15:30 休憩
- 15:40 総合討論/質疑応答
- 16:00 閉会



https://unit.aist.go.jp/innhr/diversity2020/ja/events/220824_event.html

出産・育児・介護 職員のアレコレ体験記

その8 子育てが一息ついたころの不登校

子供が小学生にあがり、さらに低学年がおわるまでに成長すると、結構手が空く、そう思っていました。このコロナ禍でも、子供は家で一人オンライン授業をうけて普通に過ごしているように見えました。オンライン授業が終わり、学校に行く段階になって、うちの子供は不登校になりました。コロナ禍の生活に原因があったかは定かではないですが、友達と遊べない、外出できない日々が続く、家ではテレビや、ネット、ゲームの時間が多くなりました。そして、学校が嫌だ、人が怖い、といった漠然とした理由で学校に行けなくなりました。

コロナ禍で出張がなくなったことは結果的に幸いし、リモートワークも可能になったこと、子の看護休暇や支援員制度(※)がありがたかったです。お医者さんや学校の先生方やお友達のサポートを受けながら、子供と家にいる生活から、午後母子登校、その後徐々に時間を早めて登校、と数ヶ月かけて、ゆっくりともとの生活に戻していくことができました。支援制度等で雇用している研究業務員さんたちも働くお母さん。日々の研究をサポートしてくれるだけでなく、育児面も気遣って私にも声をかけてくださるので励みになります。まだまだ山有り谷有りですが、支援制度を活用してもらいながら研究ペースが保てるように頑張っていきたいです。(小学生を育てる研究者)

声掛け下さるのが励みになります



支援員さんも働くお母さん

(※) 【育児・介護中職員支援制度】：NIMSオリジナル制度

育児、介護中で、業務時間の確保が厳しい職員のために、業務支援員を雇う費用を年間100万円まで助成する制度です。性別や職制に関わらず応募可能で、2006年から現在まで、延べ180名近くの利用があります。



(※) 【看護休暇】：育児・介護休業法に定められた休暇

小学校就学前の子を看護するための休暇。病気、けが、健康診断、予防接種などが対象。1年度に5日(子が2人以上であれば10日)取得可能で、1日、半日、時間単位での取得が可能。

お勤めの企業により、看護休暇が有給か無給か、子の年齢制限、取得日数の上限が異なる場合がありますので、ご確認ください。